

うちどく  
推進講演会

2月2日、市民図書館で『うちどく推進講演会』がありました。

これは、市民図書館が、絵本に親しみを持ち、家読をさらに広めていこうと、毎年開催しているものです。今回は、山口学芸大学客員教授の村中李衣さんが『しあわせを紡ぐ絵本の読みあい』と題して基調講演を行いました。

村中さんは、相手のために選んだ本で心を通わせることができる『読みあい』の大切さや、どうすれば『おはなしの世界』を共有できるかなど、自身が体験したことを交えて話しました。参加者は、村中さんの説得力のある話を熱心に聞き入っていました。



↑村中さんのやさしい口調での語りかけに会場は温かい雰囲気包まれていました

みんなであ  
考えよう  
人権・同和問題  
No.275

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

●問合先 生涯学習課人権・同和教育係 ☎23-3186

## 『しあわせ』の根っこにあるものは

人権とは『誰もが生まれながらに持っている、人としてしあわせに生きる権利』のことです。それでは『しあわせ』とは何でしょうか。

人権問題の研修会で「しあわせに暮らすために大切なものは何か」と尋ねると、健康やお金、仕事、自由、ワークライフバランス、趣味などいろいろな答えが返ってきますが、必ず出る答えがあります。それは人と人との『つながり』です。さらに最近の特徴的な答えは『安心と安全』です。

世界では分断と格差が進んでいます。人権侵害の最たるものである『戦争』が世界の安全を脅かし、不安を拡大させています。治安が良いといわれる日本でも、無関係の人を襲う殺傷事件が頻発するなど不安が広がっています。

『幸福学』という分野のある研究者は『幸せの4つの因子』

を挙げ、そのなかの一つが『つながり』と感謝（ありがとう）だと言っています。

ネット社会のいま、コミュニケーション手段は多様化し、豊かな人権社会の実現が期待されましたが、現実には極端な意見が増幅され、偽情報飛び交うなど、インターネットによる人権侵害も社会問題となっています。人と人とが直接顔を合わせてコミュニケーションを交わす関係も希薄化していますが、私たちが暮らす伊万里では、まだ地域の中での『つながり』が健在です。少子高齢化が深刻化し、支えあう人間関係の重要性が叫ばれるいま『つながり』が求められています。一人ひとりの力は限られますが、その力が集まれば大きなものになります。誰もが安心して安全に暮らせる社会を築くために、笑顔の輪を広げましょう。

## 郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎22-1262

## 1月26日は文化財防火デー

毎年1月26日は『文化財防火デー』です。文化財防火デーは、文化財を火災や震災、その他の災害から守るため、全国的に文化財防火運動を行い、国民の文化財愛護に関する意識の向上を目指しています。

文化財防火デーが制定されたのは、昭和24年1月26日で、これは、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺の金堂が炎上し、壁画が焼損したことや、1月と2月が1年のうちで最も火災が発生しやすい時期であることに由来しています。

にある国指定重要文化財の『田嶋神社』で、田嶋神社氏子会を中心に、伊万里・有田消防署、地元の消防団、消防設備設置業者が協力して防火訓練を行っています。

訓練は、消防設備を操作し、放水するなど、実践的に行われていて、万が一、火災が発生したときにどう行動するべきかを確認しています。

また、田嶋神社では、防災訓練だけでなく、消防設備点検を毎月行っていて、地元の氏子会により日ごろから安全が守られ、貴重な文化財を保護しています。



↑防火訓練の様子